自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2016 年８月

No. 68

～１冊の本が人生を変える～

発行　／　アジア・アフリカと共に歩む会

Together with Africa and Asia Association (TAAA)

２０１６年８月の報告と予定

■　１月～８月　南アにて図書・学校菜園・サッカー支援活動など。図書研修会、有機農業研修会、農業塾。国内にて、英語の本などを収集、分類・再梱包作業
■　６月　TAAA 南ア代表一時帰国・報告会
■　８月　TAAA 代表、南アを訪問
■　９月　４００箱（英語の本、算数セット、ボール）を南アに発送予定
■　１２月　TAAA 南ア代表一時帰国・報告会

目次

・最近の活動から報告（平林薫）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
・スタッフ自己紹介・メッセージ（南アのスタッフ６人）　・・・・・・・・６
・TAAA の本の梱包作業に参加して（浦和学院高校の生徒さん）・・・・７
・保育園に絵本をいただいて（三浦良祐）　・・・・・・・・・・・・・・・・８
・２０１５年度決算書　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
・南アフリカを訪ねて（横山晃佑）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
・活動日誌　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
・寄付金や本などを下さった方々　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

ウムシンシニ・ジュニアプライマリー図書室で読書する生徒たち（撮影：モンドリ・チリザ）

～最近の活動から報告～

TAAA 南ア事務所　平林　薫

JICA 有機菜園事業

写真　右　ウムシンシニ小の菜園

会報 67 号でもお伝えした通り、“学校を拠点とした有機農業促進のモデル地域作り”は 1 月 31 日に終了した。あれから半年、各対象校では菜園委員会の活動として畑作りが継続して行われている。特に比較的時間に余裕があり、生徒も楽しみながら畑作りを行っているジュニアプライマリーの活動が順調だ。5 月中旬、同事業で農業指導員であったボングムーサさんに対象校のモニタリングをお願いした。ウムシンシニ・ジュニアプライマリー（写真:右上では、昨年末に学校から苗を持ち帰って家庭菜園を始めた生徒から、“あれからすごく上手に育てたんだよ。見に来てくれるって言ったじゃない”としかられたそうだ。また、“うちでお兄ちゃんやお姉ちゃんに教えてるの”と自慢げに話す生徒もいたそうだ。小さい時に学んだ、覚えたことはきっと一生忘れずにいてくれることだろう。菜園活動がいつもナンバー1 のトゥルベケ・プライマリーを訪問すると、指導員の巡回がなくなったことから、ドラドラ校長先生自ら生徒に指導していた。生徒の一人に“今おうちで何作ってるの？”と尋ねると“ブリンジョル（なす）”との返事が。もうプロ並みだ。

写真　右下　指導するドラドラ校長

前事業では学校を拠点とした有機農業指導により、生徒や保護者が家庭菜園を始めることで、活動が地域内に少しずつ広がっていく、という有機農業促進のモデル作りを行った。学校は地域の中心であり、生徒は地域の将来を担う人材であることから、上記のような小学生が大人になる頃には仕事として農業に携わる地域住民の姿が期待される。長期的な目標に向かって進んでいると言えるが、では短期的にはどうか。会報や報告会でもお伝えしている通り、南アフリカは経済格差が激しく、対象地域のような遠隔地の住民、特に若者の失業率は圧倒的に高い。今、地域内に住む人たちが有機菜園作りをすることで食糧確保ができ、収穫物の余剰を販売して収入を得られるにはどうしたらよいか。そこで、地域内に“有機農業塾”を設置して、地域住民に有機農業の知識と技術を指導する事業を提案、JICA 草の根技術協力事業として“有機農業塾を拠点とした農村作り”が 7 月 16 日より開始となった。

有機農業塾は前事業のグループＢ、コロコロ地域のムタルメ小学校内に設置される。同小はコロコロ地域の中心部で、近くにムタルメ高校やクリニックもあり、学校の敷地も広いなど条件の良い場所だ。校内の 2 教室を改装して講義室とリソースセンターを配備、敷地内に実習用畑、育苗所を設置する。農業塾内では、特に地域の若者を対象に有機農業の知識と技術を指導し、参加者は講義終了後にテストを受け、合格者には修了書を授与し、それぞれ家庭やグループで畑作りを始める。授業では有機農業だけでなく、基礎的な会計管理やマーケティング、栄養、環境、伝統作物、ＩＴ、農場研修など、幅広い指導を行う。また、地域住民を対象とした活動は、参加希望者を募ってグループ作りをし、指導員がグループリーダーの畑で有機菜園作りの研修、実地指導を行う。住民対象のプログラムは、コロコロおよびトゥルベケ小のある山間部のトフェットの 2 地域で行う。また、リソースセンターは塾生が自習に利用するだけでなく、住民や近くの学校の生徒も利用できる公共図書室としても機能し、敷地内の育苗所では苗の販売も行って、“ガーデンセンター”として地域住民が利用できるようにする。

コロコロ地域には他の遠隔地域同様、このような施設が全くない。前事業と新事業のカウンターパート（現地側の支援団体）として活躍してくれている NGO の URDO(Umzumbe Rural Development Organization)の中心メンバーで、ムタルメ小学校教師のクマロ先生は、顔を合わせるたびに地域内にこのような施設の必要性を訴えていた。事業提案書を作成する際も地域の情報提供や活動内容へのアドバイス、そして自身の学校内の設置に向けて、校長や保護者への説明等、全力を尽くしてくれた。事業採択の連絡をすると、“夢がかなった・・・”とつぶやいた。事業終了（2019 年 4 月）後は URDO メンバーを中心に各州政府や自治体が農業塾を管理・運営することになるが、クマロ先生の存在は本当に頼もしい。

新事業では指導員を 3 名配置することになり、7 月初めに各方面から紹介のあった 13 名を面接し、3 名を決定した。候補者全員をスタッフにしたい程優秀な人材ばかりで、彼ら・彼女らが仕事を得られないという現実に改めてショックを受けた。雇用状況に関しては、地域内のクリニックで清掃作業者を 4 名公募したところ、200 人の応募があったという話も聞いた。事業での指導員 3 名は、まず農業指導員としての経験が十分にあり、教科課程も作れるシニアレベル 1 名、前事業で活躍した指導員 1 名、やる気と潜在能力が見られる地域在住の若者 1 名、という基準で決定した（3 名の自己紹介文を参照のこと）。面接は平林と URDO 代表者で、地域出身の学校長、牧師でもあるクマロ氏（先述のクマロ氏とは親戚）と共に行った。クマロ氏はいつも“地元の人たちの力になりたい。地域の若者に希望を持たせたい”と強い思いを話してくれる。関係者の間では親しみをこめて 2 人を“ダブル・クマロ”

と呼んでいる。

新事業のもう一つのカウンターパート団体である州環境省（正式には州経済開発・観光・環境省）職員であるザマ氏も対象地域内の出身の元教師で、やはり事業の計画時より情報提供やアドバイスを受けた。ザマ氏の担当する SEEP(SCHOOL ENVIRONMENTAL EDUCATION PROGRAM 学校環境教育プログラム)は基本的に州全体の学校を対象としているが、やはり地元ウグ郡の学校が中心となっている。SEEP では生徒が広く環境について学べるよう、環境美化やリサイクル活動、有機農業や植樹を行うと共に、環境に関連した“識字教育”の取り組みもあることから、TAAA の図書活動も高く評価してくれている。今回シニアレベルの指導員に決定したムファナさんは、これまで農業による地域支援活動の経験を持つが、事業に州政府や他団体がこれほどまでに協力してくれるのは見たことがないと話している。それはやはり地元愛が強い“ムタルメならでは”と言える。

地域はまず自然が素晴らしい。青く美しい海と緑の山々。海の幸、山の幸、野菜も果物もよくとれる。そして何より地域の人たちが明るくてやさしい。特に山間部の人たちは、現代社会で言えば厳しい生活かもしれないが、大地に根ざしてど～んと生きている感じでとてもすてきだ。そして子供たちの目。透き通っていて、エネルギーが溢れ出ている。地域の人たちの地元愛が強いのは、きっとこの土地と人々の持つ可能性を信じているからだと思う。実際、地域の若者の持つ潜在能力には目を見張るものがある。TAAA スタッフの多くが地域出身者だが、活動をする中で驚くべき能力を見出すことがある。例えば前事業の指導員で新事業にも参加することになったボングムーサさんは、普段は大人しいタイプだが、皆の話を聞いていて会議の最後に“なるほど”という意見を出す熟考型。そんな彼の“特技”が飾り付けだ。地域のホールで開催した有機農業促進イベントや読書推進イベントの際、彼は脚立に上ってカーテンのギャザーを寄せてプロ並みの会場装飾の腕前を見せた。

写真　左　ブックボックスを運ぶモンドリ

そしてムタルメ期待の大型新人が、会報 66 号、67 号にも登場したルトゥリ高校卒業生のモンドリ君だ。彼は図書委員会メンバーとして活躍、いつ訪問しても図書室にいて（授業中も図書室にいたのかも・・・）本の整理や他の生徒への貸出しを行っていた。当時のルトゥリ高校図書室の写真には必ずモンドリ君が写っているほどだ。対象校の生徒と連絡先の交換をしたことなどなかったのだが、何故かモンドリ君と電話番号を交換。その後、ちょうど図書活動のスタッフが必要になったところに“卒業したのだけど何もしていないので、活動を手伝わせて欲しい”とモンドリ君から連絡が入った。以来、TAAA スタッフとして活動してもらっているが、彼の明るく前向きな性格と“一を聞いて十を知る”聡明さ、実務能力に感嘆している。高校では彼より年上の生徒に威嚇されることもあるようだが、小学校では図書のお兄さんとして大人気だ。先日、彼の運転でムタルメ小を訪問する途中、親戚のおばさん 2 名に出会った。車を止めて挨拶すると、“あら～モンドリ！あの赤ちゃんだったモンドリが仕事してるよ！車運転してるよ！びっくりだね～”と私でも理解できるズール一語で大騒ぎだった。地域内はどこかで誰かとつながっていて、皆が家族のようだ。

私は学校で生徒や、地域で若者と出会うと、彼らは何を内に秘めているのだろうか、とわくわくする。しかし、そのような潜在能力を十分に発揮できる機会が少ないのも事実である。新聞記事やテレビ番組で、犯罪で捕まった若者が刑務所内で勉強したり、技術を得たりして、出所後に様々な分野で活躍する姿を見るが、何故そのような有能な若者が罪を犯すに至るのか。そもそも刑務所ではなく、学校や地域で勉強や技術を得ることができればいいのではないか。そのようなことをいつも考えていた。だから、有機農業塾が若者の学びの場となり、彼らが自信を持って何かに取り組むためのきっかけとなることを願っている。

写真　右　地域住民会議で話すンギディ氏

今回塾を設置するムタルメ小学校は、地域内では歴史の長い学校だ。図書活動で本棚の製作を依頼しているバーナード氏（63 歳）も同校の卒業生。当時はもちろんアパルトヘイト制度下で人種による差別的な教育が行われていたのだが、同校では農業や木工、調理実習など、社会に出て仕事が得られるような技術指導が行われていたという。今、まさに彼はムタルメ小学校で学んだ木工を職業としているのである。南アフリカは民主的な国として再出発して以来、すべての子供に平等な教育の機会を与えるための制度を整え、学問重視の教育課程を取り入れており、人種に関係なく優れた人材を輩出できるようになった。一方で、特に遠隔地域の学校では設備の改善の遅れや教材不足が続いており、都市部の学校との格差は大きくなるばかりである。教育省は技術教育の必要性を認識しており、最近ではジョハネスバーグ近郊のソウェト居住区内に最新鋭の機材を配備した技術専門学校を設立している。しかし、当然そのような学校に通えるのは限られた一部の生徒のみだ。遠隔地域には例え小さくても誰もが学べる場所が

必要なのである。

塾では、化学薬品を使用して大量生産を目指す大規模農業との違い、環境への配慮や食品の安全、伝統作物などへの受講者の認識を深め、“何故有機で畑作りをするのか”をしっかりと理解してもらいたいと考えている。また、生産だけでなく、管理やマーケティングの授業も取り入れることで、コース終了後に受講者がそれぞれの得意分野を生かし、様々な形で農業に携われるような人材育成に取り組むための準備をしている。塾の授業では内容に沿った特別講師も招く予定だが、できるだけ地元で各分野に精通している人たちに依頼しようと考えている。例えば、前事業でムタルメグループのリーダーとして活躍したンギディ氏には、畑での実習指導と大先輩からのアドバイスをしてもらうことになっている。先日、有機農業塾の活動について URDO メンバーと共に学校の近くに住む住民と話し合いを持った。住民から喜びと感謝の声が上がる中、ンギディ氏が以下のようなメッセージをくれた。“今日ここにいる TAAA や URDO のメンバーが、ここで私たちのために活動できるよう支えてくれている家族やたくさんの周りの人たちに最も感謝の言葉を伝えたい（ボングムーサさん訳）”ンギディ氏には、事業を実現するために様々な形で協力してくださっている日本の TAAA メンバーやサポーターの皆さんの姿がくっきりと心に映っているのだ。そんな彼こそがムタルメ地域を代表する住民と言える。だからこそ、地域の若者たちにもその“心”を伝えて行かなければならないと思う。

学校図書活動

写真　右上　バンギビーゾ小図書室で読書する生徒

右中　オタンドウェニ小の３年生に読書指導

3 月より日本 NGO 連携無償資金協力事業として、30 校を対象に図書活動支援と IT 指導のプロジェクトが始まった。正式事業名は「ウムズンベ自治区の学生の経済・社会参加に向けた学力向上と基礎技能習得」。南アには公用語が１１あるが、実質的には英語の読み書き、コミュニケーション力をつけなければ経済・社会参加が難しい状況にある。もちろん、母語のズールー語の習得が何よりも大切ではあるが、図書活動の中で、ツールとしての英語の習得を支援する。そして、やはり現代社会生活には欠かせなくなってきた IT 技能も、図書活動の一部としてセカンダリー10 校で指導している。イースター休暇明けの 4 月 14 日、対象校 10 校の校長および司書教師、対象学区の学区長 2 名、州教育省図書部門 ELITS 担当者が出席して、事業の詳細確認と機材の取り扱いに関する合意書への署名を行い、各校にノートパソコンとプリンターを一台ずつ譲渡した。機材は校長及び司書教師が責任を持って管理することが約束された。対象校では IT 指導が全く行われておらず、生徒はもちろん、司書教師の多くが初めてパソコンを利用する状況のため、基礎をしっかりと指導することが重要であることを話し合った。対象校には IT 授業の時間割がないため、指導は昼休み、もしくは放課後に行われている。IT 指導員のクラニさんは地域内の出身だが、途中からダーバンの学校に移ったため、対象校の環境や状況に戸惑うこともあるようだ。特に彼にとって山間部の学校訪問は初めての経験であり、支援の必要性を強く感じたと言う。しかし、“山間部の学校の生徒はまじめで話を良く聞くし、一生懸命学ぼうとするので指導しやすい”と話している。クラニさんは対象校 10 校の司書教師とコミュニケーションをとりながら、それぞれの状況に合ったやり方で指導を進めている。

各対象校にはそれぞれ広さや形は異なるが図書室が設置され、図書委員会システムを確立することで利用できるようになった。しかし、多くの学校ではまだ蔵書が不十分なため“ブックボックス”を貸出しすることになった。“ブックボックス”はクリアーケースに本を 40－50 冊と貸出し用ノート、生徒が感想文を書くためのコピー用紙を入れてまず 1 校に貸し出す。2～3 週間後に引き取り、本の整理をしてから次の学校に貸し出すというシステム。“ブックボックス”はあらかじめ対象とする図書室での貸出しとは別にクラス単位で授業や宿題としても利用できる。また、本を借りた生徒は必ず本の紹介文・感想文を書くことを義務付け、　読み書き能力双方の向上を図る。

写真　ルトゥリ高校で IT 指導をするクラニ

以前の会報記事でも取り上げたが、対象地域の小学校では“小四問題（久我代表命名）”　を抱えている。小学三年生まではすべての課目を母語であるズールー語で指導するのだが、四年生からは基本的に英語での指導になる。つまり小三までに英語もかなりのレベルまでマスターしておかなければ、小四からの授業が理解できなくなる可能性が高いのだ。とはいえ、先日六年生の授業を

見せてもらったが、かなりズール一語の説明が多かった。文系の学習はそれでよいかもしれないが、問題は理数系の課目である。ズール一語では数字を発音するだけでもとても長い単語になり、高学年からの理数系課目はやはり英語で指導しなければならない。小四問題は学校が抱える大きな問題であり、教育省も事態を把握し、対策を考慮しているはずである。TAAA は引き続き、小学校低学年の生徒が英語と母語の両方を楽しみながら学べるような本と、算数セットのような教材のサポートをしていきたいと考えている。

写真　　バンギビーゾ小のコンテナー図書館

コンテナー図書室寄贈

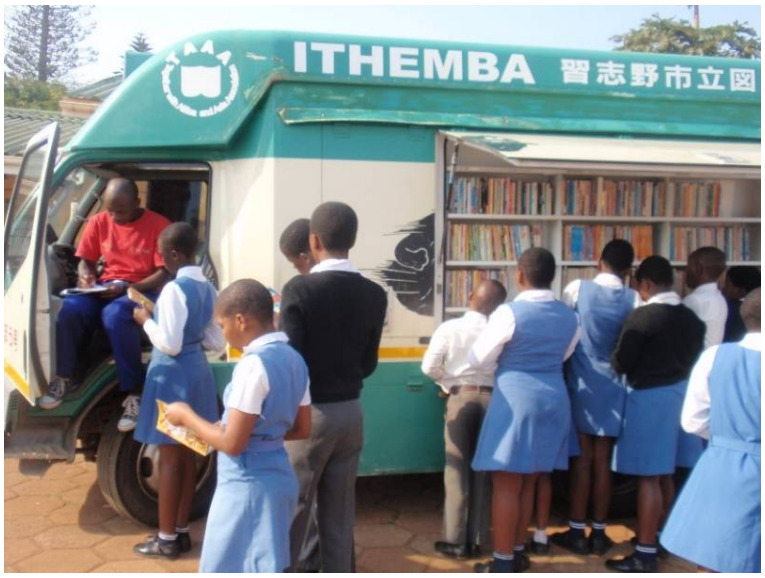
地域内ではここ数年、インフラ整備の遅れや雇用の機会の関係で、山間部から沿岸部への急激な人口流入が見られる。対象校でも生徒数の増減が見られ、これはどちら側にとっても深刻な問題をもたらしている。山間部では生徒数の減少により閉鎖される学校も出てきており、合併された学校側は対応に追われている。また、生徒数に応じて教師が配置されることから教師数が減少し、1 人の教師が複数学年を担当しなければならない状況である。一方、沿岸部の学校では教室等の設備の改善や増強ができないうちに生徒数がどんどん増加し、一クラスの生徒数 50－60 名、学校によってはせっかく設置した図書室を教室として使わなければならないケースも出てきている。

バンギビーゾ小は、校長のリーダーシップと公共図書館で司書をしていたザマ先生の活躍により、図書活動の小学校部門で常にナンバー1 の優秀校だ。生徒は学校図書室や移動図書館車から本を借りて熱心に読み、州教育省主催の読書・感想文コンテストで優秀な成績を上げている。また、TAAA 寄贈の自然科学の本を活用して研究発表を行い、表彰を受けた。しかし、今年初めに学校訪問をすると図書室が教室に変わっており、ザマ先生からは“生徒数が増えてスペースがなくなってしまった。雨風が入ってくる倉庫に本を置いている状況だし、本を箱に入れたままでは生徒が利用することもできず困っている”との訴えがあった。その後、ひろしま祈りの石財団より支援をいただけることになり、5 月にコンテナー図書室を寄贈することができた。本棚 2 本も追加で配備し、学校側は蔵書を整理して、図書室が利用できるようになった。同校のますますの活発な図書活動に期待している。

写真　左　コンテナー図書館内での読書

移動図書館車とのお別れ

写真　ムタルメ小学校で利用されるイテンバ号



ンドウェドウェ地域の学校から始まり、ウグ郡の山間部の学校も訪問、ここ数年はムタルメ地域の学校を中心に巡回していた移動図書館車“きぼう号”が勇退することになった。重い書籍を載せて未舗装の山道を上ったり下ったり、本当に良く頑張って走ってくれた。後半は劣悪な道路のコンディションから、燃料タンクが落下したり、道のど真ん中で立ち往生したりといろいろあったが、大きな事故もなくここまで活動ができたのは、初代スタッフのマイケルさんと 2 代目のカムレラさんの並はずれた運転能力の高さによるものだ。対象校の司書教師と協力しながら図書活動を促進し、生徒たちに読書の楽しさを教えてくれた 2 人には本当に感謝している。そして、“きぼう号”の魅力でどれだけたくさんの生徒が本に興味を持つようになったことか。バスは多くの子供たちの思い出として残ることだろう。バスのリタイアー先はムタルメ小学校の有機農業塾敷地内に決定した。タイヤやエンジンを外して常設し、図書室として利用する。これからは子供たちだけでなく、地域の人たちにも利用され、愛される存在になることだろう。

スタッフ自己紹介・メッセージ

翻訳：平林薫　**（後列　右）**

<u>〈菜園スタッフ〉</u>

①　ムファナフティ・ンコボ**（後列　左から二人目）**

新しく TAAA で農業指導員として活動することになりました。私たちの活動の目的はムタルメ地域の人たちに有機農業の技術を指導し、地域の活性化を図ることです。事業では栄養や収穫物の販売、環境等、幅広い授業を計画しています。私たち菜園スタッフ3名の役割は、プロジェクトマネージャーやカウンターパート団体と共に事業の目標達成に向けて努力することです。すでに農場研修を終え、農業塾での指導の準備に入っています。プロジェクトでは地域の人たちが有機農業の技術と知識を得て畑作りをすることで、安全で栄養のある食糧を得ることができ、市場で販売することも可能となるでしょう。プロジェクトは人々の生活に変化をもたらすと信じています。

②ボングムーサ・グメデ　**（前列　右）**

私は前の学校菜園事業でも指導員として活動しました。事業終了後に学校を巡回してモニタリングしたところ、ほとんどの学校で継続して活動を行っており、とてもうれしく思いました。学校で有機農業の技術が受け継がれることで、生徒が健康な生活を送れるからです。またプロジェクトで学んだチームワークやコミュニケーション力も受け継がれています。地域にこのような機会を与えてくれたことをTAAA に感謝します。地域は失業率が高く、何もすることのない若者が大勢おり、活動は彼らのモチベーションとなります。また、地域の人たちが化学薬品を使わずに野菜作りをする方法を学べます。山間部のトゥルベケ小では、校長のリーダーシップの下、活動が継続して活発に行われています。生徒たちが大人になったら、きっと野菜作りを仕事にすることでしょう。神様は、世界が実り豊かな緑の大地となり、人々が健康で幸せに生きることを願っていると思います。私はこのプロジェクトに参加できて光栄です。地域の人たちのために支援をくださり、TAAA と JICA の皆さんに改めてお礼を申し上げます。

③ムコリシ・ジュワラ　**（後列　左）**

TAAA のプロジェクトに指導員として参加できることをとてもうれしく思っています。このような機会を与えてくださりありがとうございます。地域の人たちや子供たちに有機農業の大切さを伝えて行きたいと思っています。特に若い人たちに活動への参加を呼び掛け、酒や麻薬などに溺れた生活を送らないよう、訴えて行きたいです。そして活動を通して、地域の貧困状態を改善できるよう努力します。

<u>〈図書スタッフ〉</u>

①　モンドリ・チリザ　**（前列　左）**

今回、TAAA の皆さんにご挨拶できるのを光栄に思います。図書事業で行っている学校巡回訪問は、対象校の先生方や生徒に大変喜ばれており、州教育省からも TAAA の活動への称賛をもらっていることをご報告します。学校での図書活動は、年々活発になっており、学校に良い変化をもたらしています。教師や生徒の積極的な参加が見られ、これまで活動が停滞していた学校も動き出しています。特にプライマリースクールの生徒の英語の読み書き能力の向上が明らかに見られます。対象校の先生方から、TAAA の支援への感謝の言葉をもらっています。私も TAAA で仕事ができてとてもハッピーです。

②　クラニ・ニャウォセ　**（前列　中央）**

私は TAAA の事業で IT 技術指導員として活動しています。ダーバンで IT を学び、業界でシステムサポートの仕事をした後、私の故郷で子供たちに IT の知識を指導する機会をいただきました。この地域の人たちにとって、コンピューターを学ぶことは遠い世界の事のようなのです。TAAA が IT の基礎知識を必要としている人たちに指導し、彼らの将来のキャリア作りを応援するこのプログラムは大変重要だと思います。私は自分の持つ IT の最新の知識と技術双方をこの地域の人たちに提供し、事業で目指す目標に向けて力を尽くすつもりです。

③　ントコゾ・ミエンデ　**（後列　左から３人目）**

私は現在、図書情報学の学位を得るべく勉強しています。TAAA の活動に参加して学校図書室の訪問、司書教師や生徒への指導を行う中で、将来の私自身のキャリアに関する考えにも変化をもたらしています。TAAA が支援している多くの学校では、図書活動がとても良く行われるようになっています。将来、図書情報関連の仕事を目指すにあたって、この学校図書室での活動はとても貴重な経験です。TAAA のチームメンバーも皆とても優れていて、このチームに参加できて光栄です。TAAA の活動が、自分の図書情報学の勉強に、実践の機会や図書室の現場を知る機会を与えてくれることを感謝しています。“神様は我々すべてに人間として、誠実さ、謙虚さ、創造性、愛、信頼、思いやり、忍耐を与えてくれた。我々が自らの持てる技術や知識をすべての人々のより良い人生と将来の世代のために用いることで、人間同士互いに高め合うことができる”

TAAA の本の梱包作業に参加して

浦和学院高校　３年生　　大川 未来

本日、TAAA(Together with Africa and Asia Association アジア・アフリカと共に歩む会)の学校図書支援プロジェクトのボランティアに参加しました。

TAAA では三つのプロジェクトがあります。一つ目は学校・コミュニティ菜園プロジェクト、二つ目はサッカープロジェクト、三つ目は私が参加した学校図書支援プロジェクトです。このプロジェクトでは、図書館の無い学校へ図書の導入、図書室の自主運営の支援を目的とし、南アフリカ共和国に数多くの図書を届けています。

今回のボランティアの内容は、南アに送る図書の梱包作業でした。作業所に行ってみると、思っていた以上の本の数に驚きました。すでに梱包されている本も含めると、数えきれない程です。梱包作業は一人で黙々とやったり、二人一組でやっていたりと、各々がスムーズにできるように工夫をしながら、和気藹々とした空気で行われました。主催者の方々がとても気さくだったので、初めてボランティアに参加した私でも、硬くならずにリラックスすることができました。

本の種類も数多くあり、本を読む対象者によって振り分けられていました。小さな子が読む絵本から、大人が読む専門書まで様々です。特に、高校生向けの本が豊富な印象を受けました。その中には日本の本の英語翻訳版や、日本でも人気のあったロード・オブ・ザ・リングなどがあり、違う国に住んでいたとしても、共通する本によって繋がることが出来るのだということが分かりました。

私の通っている学校では、さまざまな問題に対処する能力の向上のため、ライフスキル教育を推進しています。その中には他国との交流により自己を深めることを目的とした活動もあり、交換留学も盛んに行われています。今回、梱包作業のボランティアで、本を通じて他国と繋がるお手伝いが出来たと思います。直接話すことは無くても、何かを媒介にすることで接点を持つ手段になるのだということを実感しました。

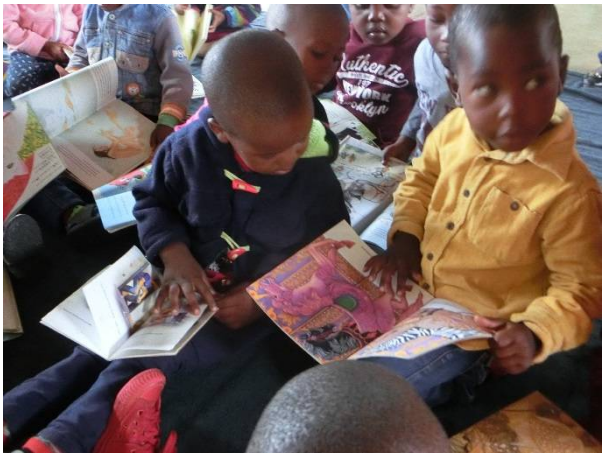
私達は学校に行けば図書室があり、外に出れば本屋や公共の図書館があり、いつでも本が読める環境にいます。しかし、それは決して当たり前のことなのではなく、感謝すべき環境だということを常に認識することが不可欠だと思います。２時間という非常に短い時間でしたが、ボランティアで社会に貢献することの重要さを知ったこと、世界に向ける視野が広がったことを今後も大切にしていきたいと思いました。

浦和学院高校　３年生　　渡辺 秀美

私は今回 TAAA アジア・アフリカと共に歩む会の図書ボランティアに初めて参加させて頂きました。この活動を通してアフリカなどの貧困で苦しんでいる国にしっかりと目を向けるきっかけになりました。今まではボランティアと言ってもユニセフ募金など募金をするくらいのことしかしていませんでした。なにかしたいけどきっかけがないと思っている時に、たまたまテレビでアフリカの現状について放送している番組を見ました。そこでは小さなうちから働く子供の姿がありました。満足のいく教育も受けられずに家族のために劣悪な環境で働く彼らを見て少しでも役に立ちたいと思った時に、このボランティアに出会いました。

実際に参加してみてボランティアは大変だなと思いました。本を梱包すると聞いていたので、そこまで大変な作業ではないと思っていた部分もありました。活動した場所も扇風機１台しかなく、いつも学校や家でエアコンを使っている私には少し辛かったです。この状況で毎回活動されている方々は本当に素晴らしいと思いました。今回のボランティアは私達高校生５人と近所の方１人と TAAA の方４人の計 10 人でした。２人１組になって本を年代、大きさで分け、ダンボールに入れてその重さを計るという作業をしました。たくさんの本があるのでどのように並べるとたくさん入るかや、どうしたら作業の効率が良くなるかなどを考えながら活動しました。

２時間という短い時間で届けられたたくさんの本のほんの一部しか梱包できず、あまり役に立てなかったけど、自分の詰めた本がアフリカの子供たちの手に渡るという事を考えると少し達成感が湧いてきました。今回のボランティアに参加させて下さった TAAA さんにとても感謝しています。また機会があったら参加してみたいです。これからもアフリカの発展のために頑張って下さい。ありがとうございました。



保育園に絵本をいただいて

平成 28 年 3 月 10 日

青年海外協力隊　南アフリカ共和国

三浦　良祐

この度は突然のお願いであったにも関わらず、快く多くの本をご寄贈いただき誠にありがとうございました。お送りいただいた英語の絵本 37 冊を本日 Hungani crèche という保育施設の子供たちに無事届けることができました。絵本に馴染みがない子供たちでしたが、皆興味津々に絵本を広げていました。英語を習いたてのため、読解力がおぼつかないところもありますが、絵本を使って読み聞かせをできるようになったと、職員の方々も大変喜んでいます。本当はこの本がどれだけ活用されるか追って報告をしたいと考えていましたが、任期の都合で間もなく日本に帰国するため十分なモニタリングができないことをお許しください。

帰国した際には皆さまの活動について詳しいお話しをお聞かせいただけたらと存じます。また、南アフリカ共和国の地方の実情を知っている身として何かお力になれればと考えています。

簡単ではございますが、これを報告とさせていただきます。以下に私と寄贈先の簡単な情報を記載いたしました。子供たちに絵本を渡したときの写真も貼り付けておりますが、写真の元データや他にも必要な情報がございましたらご連絡いただけると幸いです。

寄付依頼者：三浦　良祐（青年海外協力隊　平成 25 年度 4 次隊　南アフリカ共和国派遣）

2014 年 4 月より南アフリカ共和国に派遣され、現地 NGO の The WDB (Womens Development Businesses) Trust に配属。Mpumalanga（ムプマランガ）州の Acornhoek(アーコンフック)にあるオフィスを活動の拠点として、IT エンジニアとして現地業務をサポート。配属先の NGO では貧困地域のコミュニティー支援を行う Zenzele プログラムを実施しており、住居、生活インフラ、家庭問題、教育支援など多岐にわたる課題を現地関係者と連携しながら解決している。(WDB website: http://wdbinvestments.co.za/)

寄贈先：Hungani Crèche　（フンガーニクレッチ）

Mpumalanga（ムプマランガ）州の Cottondale(コテンデール)という村にある保育園で、3 歳から 6 歳の子供が預けられています。Cottaondale をはじめこの地域一帯には本屋がなく、周囲の学校にももちろん図書室はありません。WDB スタッフの一人がこの施設がある村で活動を行っており、昨年に園長先生と共に子供たち向けの図書室を作りたいと相談があり、南アフリカ協力隊員の OB より紹介いただいた TAAA 野田様に本の寄贈をお願いした次第です。

２０１５年度（平成２７年度）　活動計算書（2015 年 4 月 1 日から 2016 年 3 月 31 日まで）

特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会

単位：円

科　目	金　額		
Ⅰ経常収益			
１　受取会費			
正会員受取会費	155,000		
賛助会員受取会費	20,000	175,000	
２　受取寄附金			
受取寄附金	1,304,641	1,304,641	
３　受取助成金等			
受取公共助成金	13,555,887		
受取民間助成金	2,650,000	16,205,887	
４　その他収益			
受取利息	527		
雑収入	18,321	18,848	
経常収益計（A）			17,704,376
Ⅱ経常費用			
１　事業費			
(1) 人件費			
給料手当	5,363,634		
臨時雇賃金	47,993		
法定福利費	0		
人件費計	5,411,627		
(2) その他経費			
プロジェクト物資購入費	1,884,940		
研修費	720,240		
制作費	0		
プロジェクト物資輸送運搬諸経費	484,558		
旅費交通費	583,270		
車両諸経費・燃料費	908,544		
車両修理代	328,842		
視察訪問費	267,876		
専門家派遣費	138,646		
施設使用料	1,050		
会議費	39,854		
通信・運搬費	99,189		
印刷・製本費	71,315		
消耗品費	96,491		
水道光熱費	32,803		
地代家賃	271,995		
支払手数料	0		
保険料	95,200		
雑費	51,134		
その他経費計	6,075,947		
事業費計		11,487,574	
２　管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	0		
人件費計	0		
(2) その他経費			
会議費　（次ページに続く）	0		

旅費交通費	6,420		
通信運搬費	41,081		
印刷製本費	18,018		
消耗品費	17,404		
水道光熱費	0		
支払手数料	103,620		
地代家賃	90,000		
事務所設備・修繕費	62,487		
助成金返還金	147,524		
雑費	20,508		
その他経費計	507,062		
管理費計		507,062	
経常費用計（B）			11,994,636
当期経常増減額（A-B）			5,709,740
Ⅲ　経常外収益			
１　固定資産売却益		0	
経常外収益計（C）			0
Ⅳ　経常外費用			
１　過年度損益修正損		0	
２　為替差益		0	
経常外費用計（D）			0
①　当期正味財産増減額（A-B+C-D）			5,709,740
②　前期繰越正味財産額			2,544,449
次期繰越正味財産額（①＋②）			8,254,189

南アフリカを訪ねて

横山 晃佑

2015 年 10 月私は南アフリカのヨハネスブルグを訪ねました。思い立ってこの国を訪ねたのには特別な理由があります。私は 4 歳から 11 歳になる直前までの 7 年近くをヨハネスブルグで過ごしました。父の赴任に伴う移住でした。後に知ったことですが、移住した 1994 年はネルソンマンデラが南アフリカ初の国民総選挙により大統領に就任した年であり、まさに南アが新しい国に変わる記念すべき年でした。幼少期を過ごした南アフリカは私にとっての故郷です。社会の荒波に揉まれる中、改めてこの国の空気を肌で感じたいというのが今回の再訪の理由でした。

南半球にあるこの国は一般的に日本と季節が逆になります。10 月はというとこれから夏に向かう助走段階の季節のはずでしたが、2015 年 10 月は気温が 30°C 近くまで上昇しており、並外れて暑かったです。一方で空気は乾燥しており、爽やかでした。

空港に降り立ち、まず目に入ったのは中國銀行の広告でした。現地で中国資本がかなり増えてきているとの話は聞いていましたが、それを象徴していると感じました。 宿をとったのは Randburg の Linden 地区です。実はこの地区には私が 2 年間通ったヨハネスブルグ日本人学校があります。旅の目的の 1 つが母校を訪ねることでしたのでその近くに宿を取りました。Cherry Tree Cottage という宿で花がとても綺麗で、経営している老夫婦もとても素敵な方たちでした。

初めてソウェトにも足を踏み入れました。ヨハネスブルグの南西、アパルトヘイト時代の旧黒人居住区です。現地のツアーに参加しました。マンデラが住んでいた家、ヘクターピーターソンミュージアムなどの有名な場所を訪ねて行く中でとある教会に立ち寄りました。そこは1976年のソウェト蜂起の際に黒人の子供20人以上が銃殺された現場でした。教会内の至る所に銃弾の跡が残っています。撃ち抜かれたステンドグラスは展示品になっています。訪れた人が名前を書くノートにはオバマ大統領の奥さまであるミシェル・オバマ氏の名前もありました。

最終日に母校のヨハネスブルグ日本人学校を訪れました。ここでの出会いとその後の別れは今も自分の人生に影響を与えています。現在の全校生徒は小中9学年で45名程度です。事務職員で1人、当時の私のことを覚えていてくれた人がいました。人数が少ない中で今も一生懸命学んでいます。 今回の旅で今の南アフリカで生きている人たちの声を聞いたり、笑顔を見ることが出来ました。それと同時に過去から続く貧富の差も目の当たりにしました。世界は今も肌の色や宗教の違いを理由に他者を傷つけ合っています。今こそ差別と正面から闘ったこの国の歴史から改めて学ぶことがあると感じます。

主な活動（2016 年 1 月 16 日～2016 年 7 月 15 日）

〈日本国内〉

4 月～6 月 報告会の準備・広報　丸岡晶
1 月～7 月　本などの受け取りと作業場への搬入　北爪健一
1/17 梱包作業　浅見克則　鯨井幸一　高野千恵美
野田千香子　久我祐子　西村裕子　商船三井 CSR から 2 名見える。ミーティング
1/28 外務省 NGO 連携助成事業の契約締結　久我
1/31　JICA 草の根事業　完了届け　提出　久我
3/11 4/11 4/27　7/8　本の分類作業　大友深雪、久我
1 月～2 月　会報の編集・校正　野田　西村
2/21 梱包作業と会議　浅見　鯨井 野田 丸岡　久我祐子
横山晃佑
2 月中　会報 67 号発送準備　高野　野田
2/22 会報 67 号発送　野田
3/20 梱包作業　野田　丸岡　高野　高野桜　江川湧
4/6　南アフリカ大使公邸での茶話会　久我
4/10 ひろしま祈りの石 2015 年度事業完了報告書提出　久我
4/13　ボランティア貯金完了報告書提出　久我
4/17 梱包作業と会議　鯨井　浅見　野田　森直之　西村
5/11 清泉インターナショナルスクールへ本引き取り　浅見
5/15 梱包作業　野田　高野　西村　鯨井　浦和学院高校より林野下太我　深川夏美 野中香七海　高沢美穂　鳥井勇人
TAAA 理事会　久我　浅見　丸岡　下谷　野田
5/28 アメリカンスクールインジャパンへ本引き取り　浅見
津山カヤ
5/30　ミーティング　久我　平林
5/31　JICA 事業　完了報告会　JICA にて　平林　久我
6/2　JICA にてミーティング　久我　平林
6/14　(株)リコーCSR とミーティング、　本の種分け作業
久我、平林、大友
6/19 梱包作業　丸岡　大友　野田　浅見　平林薫　西村
浦和学院より 瀬〆亜莉名　松村沙結生 伊藤一翔　近藤大輝
大林航大 関祐輝 小路奈菜　伊藤千尋　倉持美薫　明石優香
午後　TAAA 総会
6/23　事業報告書、事業計算書をさいたま市に提出　久我
7/13 段ボール購入・搬入　浅見

本の引き取りの仕事

インターナショナルスクールなどから大量の書籍の寄贈を受けると、多くの場合、レンタルのトラックを使って、浅見さんが引き取りに行きます。一緒に行ってくれる人がいるときもありますが、時には 100 箱の段ボールの積み下ろしを一人で行うこともあります。5/28 はカヤくんが一緒で楽しかったとのことでした。（野田）

〈南アフリカ共和国〉　平林薫と南アのスタッフ

1/18～22 学校巡回訪問指導（菜園・図書活動）、卒業生グループ菜園にて実地研修、新規高校 1 校に菜園指導、JICA 事業報告書作成、移動図書館車整備
1/25～29　学校巡回訪問指導（菜園・図書活動）、ムタルメ小に水タンク 2 基設置、JICA 事業報告書を提出し事業完了
2/1～5　学校巡回訪問指導（図書）、菜園活動優秀校に賞状と賞品を寄贈。卒業生グループ菜園訪問。州環境省と合同で菜園活動継続のための研修会開催
2/8～12 学校巡回訪問指導(図書)、学校別寄贈用図書の準備
2/15～19　学校巡回訪問指導（図書）、図書イベント準備、州環境省 SEEP 表彰式出席
2/22～26　学校巡回訪問指導（図書）、州教育省学区長と会議、図書イベント開催（25 日）。
2/29～3/4　学校巡回訪問指導（図書）、移動図書館車の蔵書整理、本の配布
3/7～11　学校巡回訪問指導（図書）、新規対象高校の校長と会議、本の購入、N 連プロジェクトスタッフ面接
3/14～18　学校巡回訪問指導（図書）、州教育省 ELITS 担当者と会議
3/22～24　図書活動学校別進捗報告書作成、州教育省学区長と会議
3/29～4/1　URDO メンバーと会議、州環境省担当者と会議、N 連スタッフ会議
4/4～8 スタッフ全員で州教育省 ELITS 研修に参加。IT プログラム参加校を訪問して関係者と会議、学校譲渡用パソコン・プリンターの購入
4/11～15　N 連事業レンタカーの手配と受け取り。IT プログラム参加校への機材譲渡と合意書への調印式（14 日）、新規対象高校図書室の整備
4/18～22　4/27～29　5/3～6 学校巡回訪問指導（図書・IT）、学校寄贈用図書の分類、整理
5/9～13　学校巡回訪問指導（図書・IT）、JICA 新事業に関して準備、カウンターパート団体との会議
5/16～20　学校巡回訪問指導（図書・IT）、JICA カウンターパート団体との会議。帰国準備
5/23　日本に向けて出発　6/21　南アに到着
6/22～24　学校巡回訪問指導（図書・IT）
6/27～7/1　図書スタッフと会議、学校別寄贈用図書及びサッカーボールの準備、貸出し用ブックボックスの準備、州環境省担当者と会議、JICA 新事業カウンターパート会議を開催し、関係者が議事録に署名。
7/4～8　JICA 事業カウンターパート会議、JICA 事業スタッフ面接、農業塾改装業者と話し合い。
7/11～15　図書スタッフと州教育省 ELITS 主催の司書教師対象研修会に参加。JICA 事業新スタッフと共にカウンターパート会議出席、IT スタッフと会議。

☆ルイボスティのご紹介☆

ルイボスティ茶は南アの西ケープ州だけでとれる健康茶です。1 パックでヤカン 1 杯、作れます。
1 箱 80 パック 2,000 円です。（送料一律 500 円。5 箱以上送料無料）お申込みは、ＴＡＡＡ事務局へ。